

- ① 患者さんの治療を支える栄養管理を多職種によるチームでサポートします。
・新任のご挨拶
・ナディック通信
・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い
・かわらばん HPのご案内
- ② 名大病院臨床研修医のご紹介
・診療科レポート「呼吸器外科」
・令和4年度鶴舞公開講座を開催

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

- 基本方針 ● 1. 安全かつ高度な医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます



TOPICS ① 患者さんの治療を支える栄養管理を多職種によるチームでサポートします。

名大病院では入院患者さんの栄養管理に取り組む、栄養サポートチーム（NST）が活動しています。その活動内容や多職種からなるメンバーの役割などについて、チームの皆さんに伺いました。



▲取材に出席した栄養サポートチームのみなさん（医師、看護師、管理栄養士、薬剤師）

治療効果を高めるには栄養管理が重要

治療効果の向上や合併症予防の観点から、年々、栄養管理の重要性が増しています。当院では2009年から、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士を中心とする栄養サポートチーム（NST）が活動を始めました。栄養管理の重要性を啓発しようと定期的に院内学習会を開催し、現在は学習動画も公開しています。

NSTは入院患者さんに最適な栄養療法を提供するため、週2回主治医から依頼を受けた患者さんを訪室し、①栄養状態を評価、②今後の方針を検討、③その方針を主治医に提案しています。

また、2カ月に1回開催される合同カンファレンスには、各診療科の医師や言語聴覚士、臨床検査技師、歯科衛生士、事務職員もメンバーとして参加し、必要時に協力が取れる体制を整えています。

多職種が連携して、患者さんの栄養摂取をサポート

NSTでは各メンバーが専門性を発揮し、連携して患者さんをサポートしています。管理栄養士は、栄養量の設定や栄養摂取状況の評価、食事や経管栄養の内容などを提案。看護師は、病棟の管理栄養士や薬

剤師と連携し患者さんの栄養状態を把握した上で、栄養摂取の方法やタイミングなどを検討します。また、薬剤師は、服薬状況を把握し、食欲不振等の原因となる薬があれば、投薬の中止・減量、食欲改善薬・栄養輸液の組成等の薬に関

わることを提案します。そして、医師は病態を把握し今後の見通しのもと、主治医と相談し、各メンバーの意見を集約した最終的な栄養管理計画を決定します。

さらに、当院ではリンクナース（専門チーム）と病棟看護師をつなぐ役割の看護師がNSTの回診に同行し、そこで得た知見を各病棟へフィードバックするほか、低栄養などでお困りの患者さんをNSTへ紹介しています。



入院中も退院後も継続して食べられるように

入院中も退院後も継続して食べられるように

栄養状態が改善しない、下痢や便秘などの消化器症状で困っているなど、NSTではさまざまなお困り事を抱える患者さんの栄養管理を行っています。食べにくい、飲み込みにくいといった嚥下の問題についても専門家が対応しています。入院患者さんの栄養状態を早く把握し、介入が必要な患者さんをもれなくサポートすることが、NSTの目標です。そのため、これまで以上に各診療科との連携を図っていくと同時に、退院後もご自宅や次の施設でスムーズに食べ続けることができるように、さまざまな情報を提供し、より良い療養生活を支援する体制を整えたいと考えています。

もし、入院患者さんでNSTに栄養状態を診てもらいたいご希望の方は、ぜひ主治医や看護師などお近くの医療スタッフにご相談ください。

新任のご挨拶

泌尿器科長／教授 赤松 秀輔
令和5年2月1日付で泌尿器科長／教授を拝命した赤松秀輔と申します。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

泌尿器科は外科系診療科であり、がんに対する手術、腎移植、尿路再建などの高度な手術を行います。一方で、尿路性がんに対する様々な薬物治療、排尿障害の治療などの内科的治療も担います。名古屋大学泌尿器科では最新のエビデンスに沿って治療を進めるのもちろんのこと、さらに医学を進歩させる気概をもって地域の高度医療の砦としての役割を果たしてまいります。泌尿器疾患でお悩みの方はお気軽にご相談ください。



精神科長／教授 池田 匡志

この度、令和5年2月1日付で精神科長／教授を拝命致しました池田匡志と申します。

こころの悩みを抱える患者さんをサポートする精神科ですが、多くの精神疾患が生じるメカニズムは未だ判明していないため、完全に治療が成功することばかりではありません。しかし、どの治療が有効かを調べる科学的根拠は蓄積されつつあり、それに則った治療を提供していきたいと思えます。もちろん、それを裏付ける真摯な診察を心がけていきます。皆様が満足できるような医療を提供できるよう精一杯尽力いたします。



手の外科長／教授 山本 美知郎

令和5年2月1日付で手の外科長／教授を拝命いたしました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

手の外科は腕神経叢を含む上腕から指先までの疾患や外傷を担当する診療科です。小児の先天異常では足指も診ています。当院では外傷以外に手指や肘の変形性関節症や末梢神経障害、スポーツ障害などに対して、顕微鏡や内視鏡なども用いて最先端の治療を提供しています。小児から高齢者まで幅広く診療していますので、手や肘などにお困り際にはご相談ください。



特集 TOPICS **2**

名大病院 臨床研修医のご紹介

名大病院では医科歯科の研修医が医師としての道を歩み始めています。本シリーズでは、医師を目指して日々取り組む研修医の、フレッシュな意気込みを紹介いたします。

一人前を目指して 日々勉強中!



清水 亮至 (歯科研修医)

私は現在、歯科口腔外科外来で研修を行っております。診させていただく患者さんは一人で様々な疾患を抱えている方が多く、教科書通りの診療を行えない事があります。その度に悩み、自分の未熟さを痛感する日々ですが、同時にやりがいを感じ、熱心な上級医の先生方の指導の下、様々な事を勉強させていただいております。今後も患者さん一人ひとりに寄り添える歯科医師を目指し精進してまいります。



楠原 佑一朗 (医科研修医)

昨年の春から当院での研修が始まり、現在小児科で研修を行っております。今までも指導医の丁寧で熱心な指導のもとで様々な診療科で研修をさせていただき、また救急外来でも当直をさせていただいております。日々の研修の中では学生時代の知識だけではあまりわからない、診断から治療法の選択に至る一連の流れや、実臨床における考え方や思考の過程についてたくさん勉強させていただいております。まだまだ自分の未熟さを痛感させられることも多いですが、知識をたくさん身に付けるだけでなく、患者さんに寄り添える医師になれるように日々精進していきます。



飯田 俊一 (医科研修医)

私は現在麻酔科にて、術中麻酔を中心に診療に参加しています。名大病院の麻酔科研修では、薬の取り扱いや術前診察など基礎的なところから動脈ライン確保や気管挿管といった手技も広く学ぶことができています。また、様々な先生の考え方に触れることで、医療現場の奥深さも実感できました。今後も努力を怠らず、学んだことを将来の診療科でも活かしていけるよう、励んでいきたいと思っております。



診療科レポート「呼吸器外科」 呼吸器外科長 芳川 豊史

※1 縦隔・胸の中の心臓、肺、食道以外の隙間の部分



呼吸器外科では、心臓と食道以外の胸部にある構造物の手術を行います。具体的には、縦隔及び胸膜の様々な病気を対象にしています。大学病院の特徴を活かして、内視鏡を用いた低侵襲手術だけでなく、大掛かりな拡大手術も行っております。

呼吸器外科の中で最も多いのは、肺がんの手術です。肺がんは、死亡原因になるがんの中で、一番多いがんです。したがって、早期発見、早期手術が、現在の最善の治療法となっております。我々は、外科治療を担当していますが、早期だけでなく、さまざまなステージ(病期)の患者さんに対し、呼吸器内科や放射線科とチームを組んで、最後まであきらめず、知恵を絞って治療をしております。

胸は、肋骨神経が張り巡らされていて感覚が発達しているため、呼吸器外科の手術では、術後の痛みが問題になります。きつちりと根治的な手術を行うことが重要ですが、痛みを減らすことも大事です。我々は、可能な限り、胸腔鏡やロボットを用いて、からだにやさしい低侵襲手術を行っています。

さらに、間質性肺炎などの難治性肺疾患による慢性呼吸不全に対して、肺移植の準備を、この数年間行ってきました。2022年1月に肺移植実施施設に申請し、現在、承認の最終段階です。承認されましたら、肺移植実施施設として改めてご挨拶させていただきます。

12月17日(土)に、令和4年度名古屋大学鶴舞公開講座を開催しました。同講座は、医学部と附属病院が共催で、年1回開催しているもので、社会的に関心が高く、日常で役立つ話題をテーマとしています。

今年度は、「毎日の健康・明日からの健康：ホップ&ステップ～感染症・がん・心臓血管病の知識と対策を深める～」をテーマとし、第一部「ホップ：毎日の感染症に気をつけましょう」第二部「明日からの健康のために」にて、5つの講演を行いました。



いずれの講演でも、先生方がわかりやすく紹介し、和やかな雰囲気の中、受講者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。当日は、会場参加・オンライン視聴合わせて、20代～80代の幅広い年齢層にて、約108名が受講しました。受講者からは、大変参考になった。来年以降もぜひ参加したいという声が多数聞かれました。

令和4年度鶴舞公開講座を開催

Nagoya Disease Information Center

ナディック通信

肝疾患診療連携拠点病院 ホームページ

ナディックの利用休止について

患者情報センター(広場ナディック)は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため利用を休止しています。本年度は再開時に皆様に利用していただけるよう医療に関する書籍を中心に更新を行いました。再開された際には是非ご利用下さい。肝臓病教室については引き続きオンライン(名大病院公式 YouTube チャンネル)で公開しています。がん患者さん向けの「ウィッグ・頭皮ケア相談」については外来棟1階「地域連携・患者相談センター」にてがん相談員が随時対応しております。(問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663)

特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL : <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでもアクセスできます!



禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

